

東京・幡ヶ谷
(製品評価技術基盤機構)

独立行政法人製品評価技術基盤機構
長田 敏

1

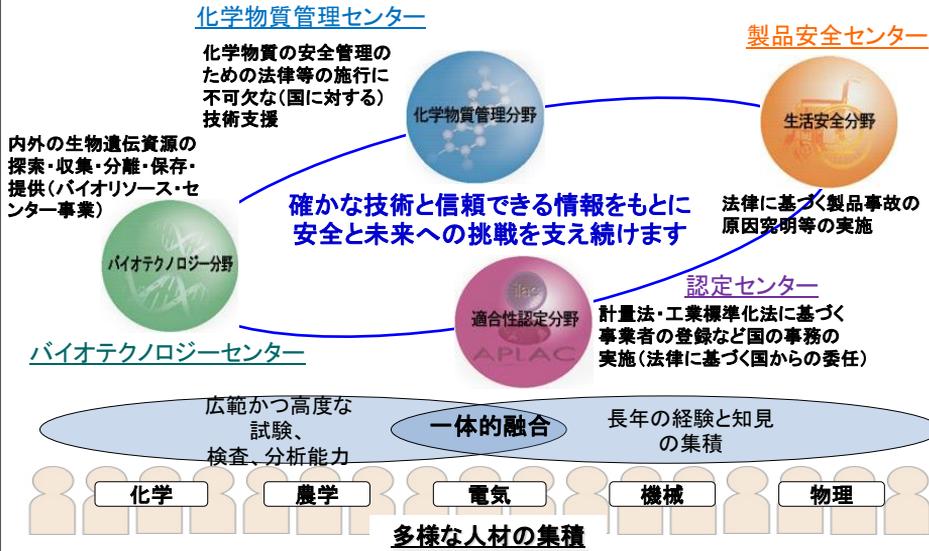
I 製品評価技術基盤機構について

2

1 製品評価技術基盤機構(NITE)について

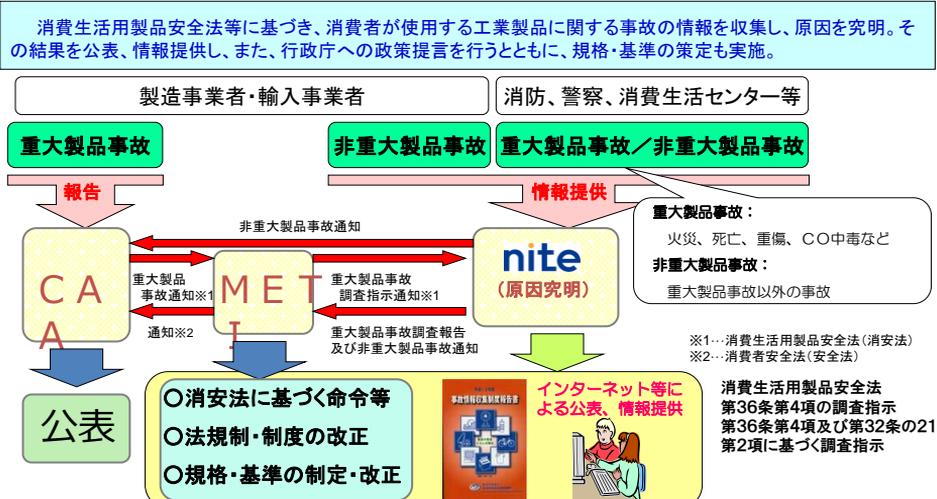


NITE: National Institute of Technology and Evaluation



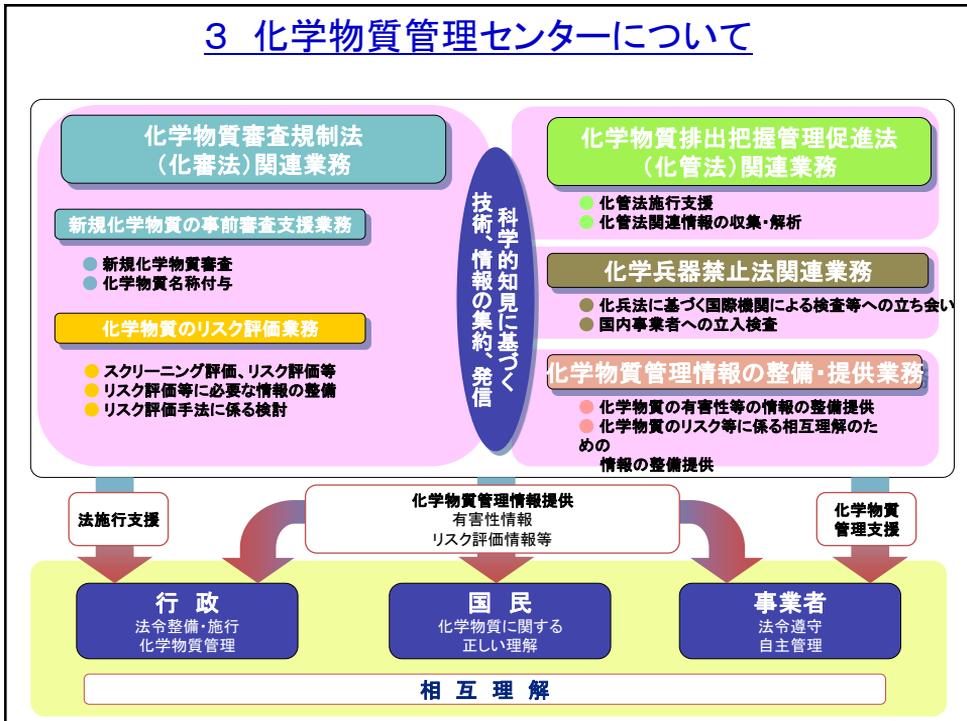
2 製品安全センターについて

国民生活の安全、安心を支援

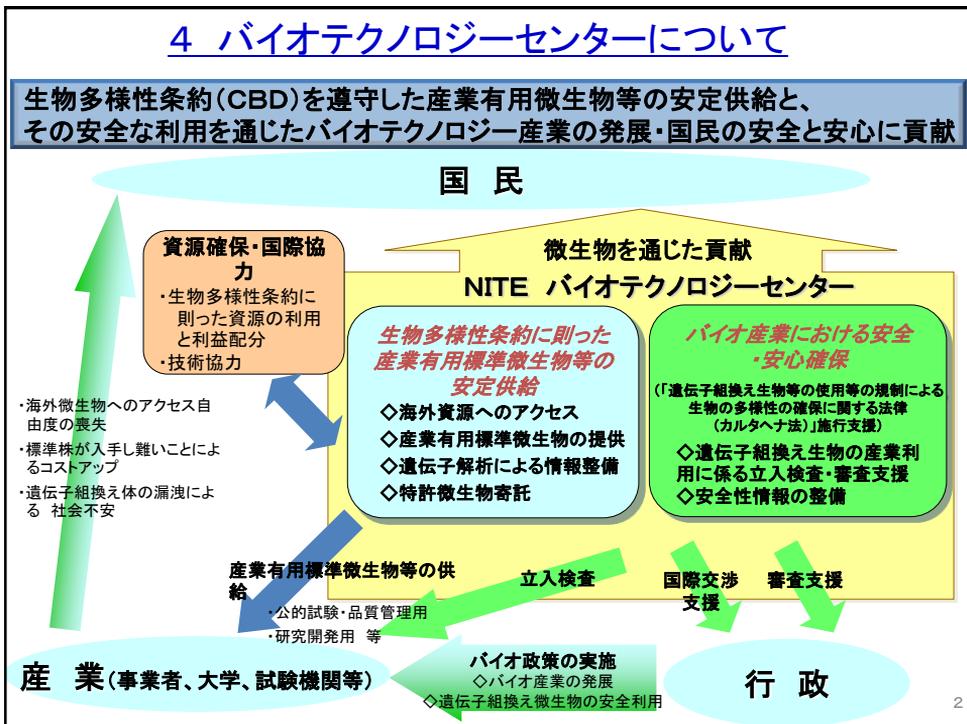


平成19年5月14日、改正消費生活用製品安全法が施行され、大臣に報告があった重大製品事故についてNITEが調査を行うことが法定化。また、改正法施行にあわせて出された通達により、非重大製品事故についてもNITEに情報が提供されている。

3 化学物質管理センターについて



4 バイオテクノロジーセンターについて



Ⅱ これまでの知の市場の活動について

7

1 製品安全センターの活動

近年、消費者が使用する製品の安全性が大きくクローズアップされ、種々の製品事故が顕在化。主婦連合会とNITEは、共同で製品事故の現状と製品安全政策について具体的事例に基づく考察、今後の事故防止方策や政策のあり方などをテーマとして、2008年8月26日から「生物総合管理の再教育講座」を開講。2009年度以降、「製品安全総合管理特論」を開講。受講者数は毎年70～100人を達成。受講者は、製造・輸入事業者、販売事業者が8割以上を占める。これまでの経緯等については以下のとおり。

- 2008年度 受講者数45人
主婦連合会及びNITEが共同で「生物総合管理の再教育講座」を主婦会館において開催。
- 2009年度
(前期) 受講者数19人
NPO法人関西消費者連合会及びNITEが共同で知の市場「製品総合管理特論-製品安全対策の基礎知識」(以下、「製品総合管理特論」という)を八尾市立くらし学習館において開催。
(後期) 受講者数52人
主婦連合会及びNITEが共同で「製品総合管理特論」を主婦会館において開催。

8

2 製品安全センターの活動

- 2010年度
 (前期)受講者数36人
 NPO法人関西消費者連合会及びNITEが共同で「製品総合管理特論」を八尾市立くらし学習館において開催。
 (後期)受講者数84人
 主婦連合会、NITE及び早稲田大学が共同で「製品総合管理特論」を早稲田大学西早稲田キャンパスにおいて開催。
- 2011年度
 (前期)受講者数16人 同上
 (後期)受講者数80人 同上
- 2012年度
 (前期)受講者数49人 NPO法人関西消費者連合会、NITE及び関西大学が共同で「製品総合管理特論」を関西大学高槻ミュージズキャンパスにおいて開催。
 (後期)受講者数53人 同上
- 2013年度
 (前期)受講者数32人 同上
 (後期)受講者数68人 同上
- 2013年度
 (前期)受講者数32人 同上
 (後期)受講者数68人 同上
- 2014年度
 (前期)受講者数38人 同上
 (後期)受講者数48人 同上

9

3 化学物質管理センターの活動

化学物質のリスク評価、リスク管理は、安全で安心できる社会の実現に不可欠である。2011年、主婦連合会、NITEが共同で「化学物質管理総合特論」を主婦会館において開講。化学物質のリスクとは何か。そのリスクを評価、管理するとはどのようなことか。リスクを解析する科学的な手法をはじめ、その背景となっている考え方、化学物質管理制度、諸外国の状況などにも言及しつつ化学物質のリスク評価の全体像を解説。また、化学物質評価の具体事例や化学物質管理に関する情報に触れるとともに、適切な化学物質管理に重要なリスクコミュニケーション手法等についても解説。2011年度以降、受講者数は毎年43～48人を達成。

FT125 化学物質総合管理特論
 ～化学物質に関するリスク評価とリスク管理の基礎知識～

	受講者数	修了者数	修了者／受講者
2011Fy	46名	28名	60.9%
2012Fy	48名	26名	54.2%
2013Fy	43名	26名	60.5%
2014FY	45名	24名	53.3%

10

3 バイオテクノロジーセンターの活動

2014年度から、バイオ安全特論を開講。バイオテクノロジーで重要な微生物の利用における微生物そのものの安全性、遺伝子組換え体の安全性の確保、生物多様性条約の発効にともなう海外微生物の取り扱い等、微生物に関する安全性や規制に関して考察するとともに、微生物の保存、提供に伴う品質管理の最新技術や微生物の活用例について考察を行う。

2014年度の受講者数は15人。

11

Ⅲ 今後の講座の計画について

12

1 今後の講座について

1. 製品評価技術基盤機構3センター(製品安全センター、化学物質管理センター、及びバイオテクノロジーセンター)は、において、2008年以降(※)、知の市場社会人講座を開催してきたところ。

いずれの講座も人気が高く、受講者は、製造・輸入事業者及び販売事業者の参加が多く、受講者の技術的な知識のレベルが高い。

(※)製品安全センター(2008年開始)
化学物質管理センター(2011年開始)
バイオテクノロジーセンター(2014年開始)

2. 知の市場社会人講座については、2015年4月からの製品評価技術基盤機構の行政執行法人化に伴い、国との密接な連携の下で、事務・事業の確実な執行が期待される法人の業務としていく必要がある。

このため、知の市場の開講によって、得られた経験を生かし、共催講座から関連講座に変更し、社会人講座を引き続き行うこととする。

13

2 今後の講座について

1. 講座の名称は、NITE講座「リスクガバナンス」とする。
2. NITE講座「リスクガバナンス」の3センターそれぞれの名称は、
 - ・製品安全のためのリスクガバナンス
 - ・化学物質のためのリスクガバナンス
 - ・バイオテクノロジーのためのリスクガバナンスとする。

◆リスクガバナンスとは？

これまでのリスク・マネジメント論が、社会全体の資源の制約には分野ごとの最適な対処を目指していたのに対し、リスクガバナンス論は、社会全体として資源節約の基で、社会としてどのリスクにどのように対処すべきか、すなわち社会全体としての対処の最適化を目指すもの。

14